

円満想続の3K「感謝・絆・供養」

月刊ニュースレター

想 続

Vol. 15 (2011年12月号)

発行：一般社団法人 日本想続協会

〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-4-1 岡野ビル 4F

TEL 03-3404-1225 FAX 020-4664-9664

E-mail info@n-sk.org (担当：内田)

☆定期購読（無料）をご希望の方は上記へどうぞ！

『愛する家族へ想いを伝える 想続ノート』ができました！

こんにちは。想続塾塾長の内田麻由子です。先日、映画「エンディングノート」を観ました。定年後にがんを宣告された男性が亡くなるまでを、娘が撮ったドキュメンタリーです。病と闘いながらもいつもユーモアを忘れず、だんだんと自分の死を受容して、最期は「幸せです」と言って、妻と子・孫に看取られて天に召されていった男性。彼が生前に書き記したエンディングノートには、葬儀や遺産のこと、遺される妻を気遣う気持ちが綴られていました。

精神科医で作家の齋藤茂太氏は、古希を迎えて老年や死を意識せざるを得なくなったときに「どうせいつかは向こうからやってくる「死」である。ならばトコトン、死ぬまで生きてやろうじゃないか（あたりまえだ）と。しっかり死神を見すえて老年を過ごすのがよろしかろう」と著書『茂太さんの死への準備』で述べています。私たちは、いつどのように死を迎えるかについては選べません。しかしそのときのために備えておくことはできます。

先月、日本想続協会で作ったエンディングノート『愛する家族へ想いを伝える 想続ノート』が完成しました。『想続ノート』を手にとってくださるお一人お一人の方が、自分らしい人生のエンディングについて考えるお手伝いができたらとても嬉しいなと思います。

◆『愛する家族へ想いを伝える 想続ノート』はじめのことばより

あなたのこれまでの人生で、いちばん嬉しかったことは何ですか？
いま楽しんでいること、これからやってみたいことは？
もしものときのために、家族に何を伝えておけばよいでしょうか？

「想続ノート」は、あなたの幸せな老年期と、ご家族の円満・円滑な相続をサポートします。

元気なうちに考えて家族に伝えておきたい大切なことについて、このノートに記入しながら“人・物・想い”の棚卸しをしましょう。ノートの作者はあなた、読者はご家族です。

相続とは「相（すがた）を続けること」です。

親が精進・努力する相（すがた）を、子が受け継いでゆくこと。これが本来の相続です。相続には「財産の相続」と「心の相続（想続）」があるのです。

財産の相続では、遺言書をつくる前に、財産の状況や自分の考えを整理するのに、このノートがとても役立ちます。遺言書をつくる時や、相続・贈与・税金について知りたいときなどには、このノートを持参して、専門家に相談するとよいでしょう。

心の相続（想続）とは、親の生き方、信条、想いを相続することです。

あなたがこれまでの人生で大切にしてきた想いや、家族への感謝の気持ちを、飾らずに、自分の言葉で伝えましょう。家訓や自分史をご家族でつくるのも素敵ですね。

このノートは、一度つくったらおしまいではありません。家族や財産の状況が変わったときには内容を見直しましょう。お誕生日やお正月に、新たな気持ちでノートをつくってもよいですね。

あなたの人生のパートナーとして、このノートをいつもお手元に置いてくださいね。

「想続ノート」が、ご家族の絆を深める一助となりましたら、望外の喜びです。

あなたのこれからの人生が、愛と希望に満ちた日々となりますよう、心からお祈りしています。

「共に喜ぶのは二倍の喜び、共に苦しむのは半分の苦しみ」～ドイツの古い諺

☆『愛する家族へ想いを伝える 想続ノート』についてのお問い合わせ・ご注文は、
(社)日本想続協会 (TEL03-3404-1225、E-mail info@n-sk.org) までどうぞ。